

国語科 小学校第2学年カリキュラム

月	単元・指導内容	学習指導要領の内容	時数	重点化の理由	下学年等での既習事項	円滑な接続への留意事項	上学年等での学習事項	備考 ■実践例、◆課題
4	音読しよう ふきのとう ◎「人物」を中心に役に分かれ、声の大きさや速さなどを工夫して音読する。	C(1)アウ B(1)ウ 伝国(1)イ(カ)	12			○明瞭な発音で文章を読む、ひとまとまりの語や文として読む、言葉の響きやリズムなどに注意して読むなどをおさえる。	内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読する。	
	春がいっぱい ○春にかかわる身近なものを表す言葉を探し、友だちと話し合う。	伝国(1)イ(ア)	1			○言葉が果たす多様な働きや特徴を理解させる。	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付く。	
	書くことをきめて、しらせよう 今週のニュース ◎友達に知らせるために、身近な出来事から書くことを決め、出来事の様子や気持ちを書く。	B(1)アオ 伝国(1)イ(カ)	4			○一人一人の経験や生活、興味・関心を大切にして楽しんで書く経験を積ませる。	関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べる。	
	読んでわかったことをまとめよう たんぼぼのちえ ◎時間の順序や理由づけを表す言葉に着目し、様子とわけなどを考えながら説明的文章を読む。	C(1)イエオ B(1)イ 伝国(1)イ(ウ)	12(+1)	大事な言葉や文章を書きぬくことが、難しくかつ重要なので、練習を重ね定着を図る。		○順序に沿って内容の大体を読んで理解することに重点を置くことをおさえる。また、内容や表現からみて大事な言葉や文を書き抜く学習をさせる。	目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読む。 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりする。	
5	かん字のひろば① ◎絵に描かれた町の様子を想像して、文を書く。	B(1)ウ 伝国(1)イ(オ)ウ(ウ)	2			○文を書く際には、文末に必ず句点を打つように入門期から指導し、文意識を育てていく。読点については、文頭の接続詞などの後、主語の後、従属節の後、並列する語の後など、必要な箇所に打つことを理解させる。	句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書く。	
	きろくしよう かんさつ名人になろう ◎知らせたいことが相手に伝わるように、題名をつけ、	B(1)アイオ 伝国(1)イ(カ)	14			○前後の語句や文のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えさせる。	書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。	

	書き表し方を工夫して書く。						
	<p>きいてたのしもう</p> <p>いなばの白うさぎ</p> <p>○場面の様子を想像しながら読み聞かせを聞き、内容や感想について聞いたり話したりする。</p>	C (1) ウ 伝国 (1) ア (ア)イ (カ)	2			○話の中心に気をつけて聞き、質問をしたり感想を述べたりさせる。	長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使う。
6	<p>かたかなのひろば①</p> <p>◎片仮名の語を読んだり書いたりする。</p>	伝国 (1) ウ (ア) B (1) ウ	2			○擬声語や擬態語、外国の地名や人名、外来語など片仮名で書く語がどのような種類の語であるか知ること大切にするをおさえる。	日常使われている簡単な単語について、ローマ字表記されたものを読み、また、ローマ字で書く。
	<p>だいじなことをおとさず</p> <p>に、話たり聞いたりしよう</p> <p>ともさんはどこかな</p> <p>◎絵の内容に興味をもち、大事なことを聞き落とさないようにしながら、聞く。</p>	A (1) ウエ 伝国 (1) イ (イ)	4			○一音一音をはっきりとした発音で話すことを大切に、また、相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すことを扱う。	相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話す。話の中心に気をつけて聞き、質問をしたり感想を述べたりする。
	<p>同じぶぶんをもつかん字</p> <p>◎漢字には同じ部分をもつものがあることを知り、部分に注意して漢字を読んだり書いたりする。</p>	伝国 (1) ウ (ウ)	2			○小2では、小1に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使う習慣を身に付けるようにするとともに、小1同様、配当されている漢字を文や文章の中で使うように指導することをおさえる。	漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつ。
	<p>お話を読んで、かんそうを</p> <p>書こう</p> <p>スイミー</p> <p>◎人物の行動や場面の様子などについて、想像を広げながら読み、感想を書く。</p>	C (1) ウエオ B(1)オ 伝国 (1) イ (ウ)	1 0			○内容や表現からみて大事な言葉や文を書き抜く学習をさせる。	目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりする。
	<p>かん字のひろば②</p> <p>◎挿絵から「たぬきの運動会」の様子を想像し、文を書く。</p>	B(1)ウ 伝国 (1) イ (エ) ウ (ウ)	2 (+1)	「は」や「を」を適切に用いて文を書くことが、定着しにくいので練習が重要である。		○前後の語句や文のつながりを大切に、一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えさせる。	書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。
	<p>まとまりにわけてお話を</p> <p>書こう</p> <p>お話のさくしゃになろう</p> <p>◎書いたお話を読み返して、誤字、脱字、句読点、</p>	B (1) アイエ オ 伝国 (1) イ (エ) (オ)	1 0			○文を書く際には、文末に必ず句点を打つように入門期から指導し、文意識を育てていく。また、読点については、文頭の接続詞などの後、主語の後、従属節の後、並列する語の後など、必要な箇所に打つことを理解させる。	句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書く。

	かぎ(「」)の使いかたを正す。							
7	<p>うれしい ことは</p> <p>◎人をうれしい気持ちにさせる言葉の働き気づく。</p>	伝国(1)イ(ア) B(1)ア	1			○使用する語句の量や範囲を広げながら、語句相互の意味関係を理解させる。	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付く。	
	<p>本は友だち</p> <p>黄色いバケツ お話の国の友だち ◎紹介文に必要な事柄を理解し、人物の人柄について説明するのに必要な情報を集めある。</p>	C(1)ウカ B(1)ア 伝国(1)イ(ウ)	1 2			○一人一人の経験や生活、興味・関心を大切にして楽しんで書く経験を積ませる。	関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べる。	
	<p>かん字のひろば③</p> <p>◎絵に書かれている漢字と言葉を使い、1週間の出来事を書く。</p>	B(1)ウ 伝国(1)ウ(ウ)	2			○前後の語句や文のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えさせる。	書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。	
8	<p>夏がきた</p> <p>◎夏にかかわる身近なものを表す言葉を探し、夏らしい言葉を使ってお便りを書く。</p>	伝国(1)イ(ア) B(1)ウ	1 2			○言葉が果たす多様な働きや特徴を理解させる	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付く。	
	<p>こえに出して読もう</p> <p>おおきなあれ ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて詩を音読する。</p>	C(1)ア 伝国(1)イ(ウ)				○明瞭な発音で文章を読む、ひとまとまりの語や文として読む、言葉の響きやリズムなどに注意して読むなどが重要であることをおさえる。	内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読する。	
	<p>はつぴょうしよう</p> <p>あったらいいなこんなもの ◎自分が考えた「物」について、相手にわかるように、話す事柄や順序を考え、声の大きさや速さなどに注意しながら、はっきりした発音で敬体で話す。</p>	A(1)アイウエオ 伝国(1)イ(ア)	1 4			○場面や状況によって普通の言葉と丁寧な言葉を使い分けようとする気持ちをもたせる。	相手や目的に応じて、理由や事例などをあげながら道筋を立て、丁寧な言葉を用いるなど、適切な言葉遣いで話す。	
9	<p>カンジーはかせの大はつめ</p> <p>い</p> <p>◎クイズを通して、漢字の作りや熟語について確かめ</p>	伝国(1)ウ(ウ)	2			○小2では、小1に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使う習慣を身に付けるようにするとともに、小1同様、配当されている漢字を文や文章の中で使うように指導することをおさえる。	漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつ。	

	る。						
	ことばであそぼう ◎平仮名を組み合わせて、意味のある言葉を作ることができる。	伝国(1)イ(イ)(ウ)	1			○読みやすい表記を考えながら書く言語感覚を養うことをおさえる。	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く。
	読んで考えたことを書こう 動物園のじゅうい ◎時間的な順序や事柄の順序を考えながら獣医の仕事やそのわけを読み取る。	C(1)イエオ B(1)アイ 伝国(1)イ(ウ)	1 2 (+1)	構成を考えた文を書くことが難しくかつ重要なので、多くの練習が必要である。		○内容や表現からみて大事な言葉や文を書き抜く学習をさせる。	目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりする。
1 0	音読げきをしよう お手紙 ◎場面のようにについて、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読劇をする。	C(1)アウオ B(1)アイ 伝国(1)イ(カ)	1 2			○明瞭な発音で文章を読む、ひとまとまりの語や文として読む、言葉の響きやリズムなどに注意して読むなどが重要であることをおさえる。	内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読する。
	主語と述語 ◎み物に主語・述語があることに気づき、文の中や生活の中での主語・述語の関係を理解する。	伝国(1)イ(カ)	2			○主語と述語が照応することが大切であるということについて、文章を読んだり表現したりする時、強く意識できるように指導をするように進める。	修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつ。
	かん字の読み方 ◎漢字にはいろいろな読み方をするものがあることを知り、文の中で正しく使う。	伝国(1)ウ(ウ)	2			○小2では、小1に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使う習慣を身に付けるようにするとともに、小1同様、配当されている漢字を文や文章の中で使うように指導する。	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使う。
	秋の一日 ◎秋にかかわる身近なものを表す言葉に興味をもち、秋らしいものについて話し合う。	伝国(1)イ(ア)	1			○言葉が果たす多様な働きや特徴を理解させる。	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付く。
1 1	しょうかい文を書こう 友だちのこと知りたいな ◎友達のよいところを見つけ、構成を考えて、友達を紹介する文を書く。	B(1)アイウオ A(1)エ 伝国(1)イ(オ)	1 0 (+1)	構成を考えた文を書くことが難しくかつ重要なので多くの練習が必要である。		○文章には「始め—中—終わり」などの構成があることを意識できるようにさせる。	文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成する
	かたかなの広場②	B(1)ウ	2			○擬声語や擬態語、外国の地名や	小学校第3学年においては日

	◎片仮名の語を使って、「何が」「どうする」が整った文を書く。	伝国 (1) ウ (ア)				人名、外来語など片仮名で書く語がどのような種類の語であるか知ることが大切にする。	常使われている簡単な単語について、ローマ字表記されたものを読み、また、ローマ字で書く。	
	<p>読んでせつめいのしかた</p> <p>を考えよう</p> <p>しかけカードの作り方 ◎「しかけカードの作り方」を読んで、しかけカードを作り、「説明のしかた」について意識をもつ。</p>	C (1) イ 伝国 (1) イ (ウ)	6			○順序に沿って内容の大体を読んで理解することに重点を置くことをおさえる。	目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読む。	
	<p>分かりやすくせつめいしよう</p> <p>おもちゃの作り方 ◎おもちゃの作り方の手順に沿って、絵を用いながら文章をかく。</p>	B (1) アイウ 伝国 (1) イ (ウ)	6			○前後の語句や文のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えさせる。	書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。	
1 2	<p>図書館のひみつをさぐる。</p> <p>きみたちは「図書館たんでいさん」 ◎図書館や本の分類について知り、本を探することができる。</p>	A (1) イ C (1) カ 伝国 (1) イ (キ)	6			○場面や状況によって普通の言葉と丁寧な言葉を使い分けようとする気持ちをもたせる。	相手や目的に応じて、理由や事例などをあげながら道筋を立て、丁寧な言葉を用いるなど、適切な言葉遣いで話すこと。	
	<p>お話の人物と自分をくらべて読もう</p> <p>わたしはおねえさん ◎登場人物の行動や場面の様子から想像を広げながら読み、自分の経験と結びつけて1、感想をもつ。</p>	C (1) ウオエ B(1)ア 伝国 (1) イ (カ)	1 2			○場面の様子の変化や登場人物の行動の変化を把握させた上で、その様子を豊かに想像しながら読ませる。	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む。	
	<p>かん字の広場④</p> <p>◎絵に書かれた数を表す言葉を使って算数の問題を作ったり、お話をつくったりする。</p>	B(1)ウ 伝国 (1) ウ (ウ)	2			○前後の語句や文のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えさせる。	書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。	
	<p>たのしい冬</p> <p>○冬の伝統文化にかかわる言葉を知る。</p>	伝国 (1) イ (ア)	1			○言葉が果たす多様な働きや特徴を理解させる	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付く。	
	<p>詩をたのしもう</p> <p>だれかしら ◎語のまとまりや言葉の響</p>	C (1) ア 伝国 (1) イ (ウ)	2			○明瞭な発音で文章を読む、ひとまとまりの語や文として読む、言葉の響きやリズムなどに注意して読むなどが重要であることをおさえる。	内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読する。	

	きなどに気をつけて詩をあんしょうする。						
	<u>ことばについて考えよう</u> ようすをあらわすことば ◎さまざまな様子をあらわすことばについて知り、言葉への興味を広げる・。	伝国 (1) イ (ア) (ウ)	4			○言葉が果たす多様な働きや特徴を理解させる。	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付く。
1	<u>詩を書こう</u> 見たこと、かんじたこと ◎様子を表す言葉の使い方に注意して、教科書にある例を参考にして詩を書く。	B(1)ア 伝国 (1) イ (ウ)	5			○一人一人の経験や生活、興味・関心を大切に楽しんで書く経験を積ませる。	関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べる。
	<u>聞いて楽しもう</u> ◎三まいのおふだ 読み聞かせを聞き、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像をひろげる。	C (1) ウオ 伝国 (1) ア (ア) イ(カ)	1			○場面の様子の変化や登場人物の行動の変化を把握させた上で、その様子を豊かに想像しながら読ませる。	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、 <u>叙述を基に想像して読む</u> 。
	<u>知っていることとつなげて読もう</u> おにごっこ ◎「おにごっこ」を説明する文章を読み、自分の経験を結びつけて、思いや考えを発表する。	C (1) イオ B(1)アイ 伝国 (1) イ (ウ)	1 2 (+1)	「始め—中—終わり」などの構成がある文を書くことが定着しにくいので、より多くの練習が必要である。		○本や文章の内容や構成に対する思いや考えを書き、まとめる学習をさせる。	文章を読んで <u>考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く</u> 。
2	<u>すすんで考えを出し合おう</u> みんなできめよう ◎互いの話を集中して聞き、話題に沿って話合う。	A (1) オ 伝国 (1) イ (ア)	6			○本や文章の内容や構成に対する思いや考えを書き、まとめる学習をさせる。	文章を読んで <u>考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く</u> 。
	かん字の広場⑤ ◎絵を見て、主語と述語のつながりに気をつけて、公園の様子を書く。	B(1)ウ 伝国 (1) イ (カ)ウ(ウ)	2			○前後の語句や文のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えさせる。	<u>書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く</u> 。
	<u>なかまのことばとかん字</u> ◎仲間の言葉や漢字を知り、文や文章の中で正しく使うことができる。	伝国 (1) ウ (ウ)	2			○集中して聞かせる指導として、話し手の方に顔を向けたり、頷いたりしながら聞く指導を進める。	<u>互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合う</u> 。
3	<u>読んだお話をしようかい</u>	C (1) ウエ B(1)ウ A (1) アエ	1 5			○場面の様子の変化や登場人物の行動の変化を把握させた上で、その様子を豊かに想像しながら読ま	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、

<p>しよう</p> <p>スーホの白い馬</p> <p>◎場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読んだり、自分の感想の中心をとらえる。</p>	<p>伝国(1)イ(ウ)</p>				<p>せる。また、内容や表現からみて大事な言葉や文を書き抜く学習をさせる。</p>	<p>叙述を基に想像して読む。</p> <p>目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりする。</p>	
<p>ことばを楽しもう</p> <p>◎回文を楽しみ、言葉のおもしろさに気づく。</p>	<p>伝国(1)イ(ウ)</p>	<p>1</p>			<p>○明瞭な発音で文章を読む、ひとまとまりの語や文として読む、言葉の響きやリズムなどに注意して読むなどが重要であることをおさえる。</p>	<p>内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読する。</p>	
<p>文集を作ろう</p> <p>楽しかったよ、二年生</p> <p>◎楽しかったことの中心が明確になるように、「はじめ・中・おわり」の構成で、ひとまとまりの文章を書く。</p>	<p>B(1)アイウエ</p> <p>伝国(1)イ(エ)(オ)</p>	<p>1 2 (+1)</p>	<p>始め—中—終わり」などの構成がある文を書くことが重要なので、練習が必要である。</p>		<p>○前後の語句や文のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えさせる。</p>	<p>書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く。</p>	
<p>合計</p>		<p>3 1 5</p>					